



小池 百合子 (衆議院議員)
水素社会実現を促進する研究会会長

水素は日本の資源問題を解決する可能性

100年後を見据えたビジョンづくりを

約30年ほど前になると思うが、民間テレビで歯切れの良い女性のニュースキャスターがいた。色白でショートカットのよく似合う美人キャスター、小池百合子は爽やかな風を電波に乗せて茶の間に送り込んだ。5歳ほど上の筆者の脳裏には、当時のまぶしい程の存在感が、鮮明に刻み込まれている。

その後政界入りした小池氏は、参議院議員(1期)、環境大臣(第5・6・7代)、内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策担当)、そしてわが国初の女性防衛大臣(第2代)、自由民主党総務会長などを歴任、多くの政策を実行に移した。「トルコ風呂」の名称を改めたり、クールビズの徹底なども小池氏の功績である。

今回、小池氏に対談を申し入れたのは、前回の宮内秀樹議員との対談(8月号18P)の中で、水素社会実現を促進する研究会の存在を知ったからである。来年からトヨタとホンダが水素を燃料とする燃料電池車を発売することは広く知られているが、小池氏が水素社会実現を促進する研究会を立ち上げて活動しているのであれば、トラック輸送もその対象にとらえているに違いないと考えたからである。

対談時間は30分そこそこの限られていたが、小池氏が考えている水素社会は、日本のエネルギー問題を根本から見直すほど壮大なものであった。

言葉が丁寧で説得力のある喋り方はニュースキャスター時代と変わる所がないが、発言には、国家の将来を憂う極めて重要なメッセージが込められている。日本を根本から変えることが出来る政治家のひとりである。(秋林路)

■今こそ本質に向かって 突き進まなければ手遅れに…

秋林路 今回の第二次安倍内閣の顔ぶれを見ますと、デフレ脱却、経済活性化に力を入れることは伝わって来ますが、環境に対するトーンが少し下がったのではないかと気がします。如何がでしょうか。

小池 そうは思いませんが、私は環境大臣を最長の3年務めました。クールビズも始めて今年で10年になります。夏の風景が変わりましたでしょ? 成果には時間がかかります。

秋林路 そうですね、男性の皆さん、首回りをすっ

きりさせていますから、ご本人だけでなく見た目もスッキリして来ました。それとネクタイをしないので、Yシャツのデザインがファッショナブルになりましたね。これも新しい経済効果をもたらしたのではないかと思います。

小池 私は常に、政治には“大義と共感”がなければいけないと申し上げています。地球温暖化対策や、人口減少化社会に対して、どのように対処するか、という大義があっても、国民の心に響かなければ、いかに法律をつくっても、どんなに予算をつぎ込んでも効果は薄いという事です。国民の共感が得られ、かつ大義が達成される方法を考えないと、意味がないと思います。

日本には大義の詰まった法律が沢山あります。ところが、それは看板がかかっているだけで、しかも予算がたっぷりついているにも関わらず、十分活用されていない事例は山ほどあるんです。

秋林路 本音と建前にも通じるお話ですが、国民から見れば“空しい”の一語に尽きます。

小池 政治家も立案から携わって法律をつくる。でも作っただけで終わり、みたいなところもあります。大切なことは、その結果です。例えば、いま人口が減少している。これから50年間で1億人を切り9000万人台になる。生産労働人口が更に40%も減少して半分になってしまう

秋林路 そういう事はシンクタンクが随分前から警鐘を鳴らしています。

小池 そういう事です。人口問題は、よほどの天変地異や、近隣諸国から1000万単位で難民が押しかけて来るとか、しない限りは変わらない。人口の推移はウソをつかない。日本の人口数は、どこかの国と違って、生まれてから死ぬまでがしっかりカウントされている。人口減少は何十年も前から分かっている事です。しかし、それに対して何をしてきたのか。法律はいっぱい作りました。最近では出生率が僅かにもどりましたけれども、人口減少には歯止めがかかっていません。

秋林路 そうですね。何十年も前から分かりきっ

ている事に、法律の手を打っても、目的が達成されないのでは、手を打ったことにはならない。

小池 今回の組閣で女性が5人入閣しましたが、実は2005年の小泉内閣の時に、2020年までに、あらゆる分野の指導的地位に30%の女性を登用するという事を政策で決めたのです。ところが、それがずっと冷蔵庫に入ったまま…。掛け軸になっていたんです。立派な掛け軸ですね、それでどうになりましたか。何も変わっていないじゃありませんか。

それで実は、私が中心になりまして、閣議決定された古い政策を引っ張り出して来て、ネーミングを2030(2020年までに30%)としました。先ず隗より始めよ、で安倍総理に進言して今回やっと5人の女性閣僚が誕生したんです。

秋林路 それは公言したことが実現した例ですね。

小池 そうです。ですから政策に予算をつけても、関係者や国民が「そうだ」と膝をたたくような政策じゃないと、絵に描いた餅に終わってしまう。政治も行政もちゃんとやりましたよ、と言っても現場は何も変わっていない。これまでは、その繰り返しでやって来たんですよ。その結果が現在です。

秋林路 国民が納得し、共感出来なくては何もしなかったのと同じ事ですからね。

小池 でも、その場当たりは、もう終わらせなければいけません。

秋林路 何のための政治であり行政なのか、その根本のところですね。

小池 人口減に歯止めをかける話にしても、日本が資源に恵まれていない国である事にしても、戦争をする前から判っている話です。日本がなぜ戦争したのか、なぜ満州に出かけて行ったのか、南方に出兵したのか、その狙いは資源確保だった筈です。

秋林路 戦争は善しとはしませんけ

れど、産業発展にエネルギーを必要とする当時の状況では、武力に訴えても資源を確保する必要があったのでしょね。

小池 そういう意味では根本は判っているのに、ここまで対処療法でしか手を打って来なかった結果が現在なんですよ。

秋林路 もう対処療法では国が持たない。本質、その根本にメスを入れる必要がある。

小池 そうです。今、その本質に向かって突っ込んで行かなければ、2020年の東京オリンピック、そして2020年までにリーダー的立場の女性を30%に…と念仏を唱えています。今こそ、その為に何が必要なのかを洗い出す時期です。これが日本にとって最後の正念場になると思います。

■水素は日本の資源問題を解決する可能性を秘めている

秋林路 中東の情勢とか、不安定なEU諸国、近隣では中国や韓国との関係など、大変な時代に向かってるな、と思います。

先ほど、資源問題に言及されましたが、来年から水素を活用したFCV、燃料電池車をトヨタとホンダが発売しますので、自動車もまた新たな第一歩を踏み出すこととなります。小池先生は水素社会実現を促進する研究会の会長でもありますので、水素の話題に移らせて頂きたいと思います。

小池 はい。日本が資源に乏しい国であることは承知しております。今の中東情勢や円安を考えますと、高騰する燃料価格がトラック運送業界を直撃していることも承知しております。しかも、消費税のアップであるとか、税の負担の面でも、トラック運送業界がショックアブソーバーの位置づけになっている事も承知しています。正に今、これが業界にとって最大のショックなんだろうと思います。では、どうすれば良いのか。

円安は今後も続く可能性があります。中東情勢

も落ち着かない。一方ではアメリカでシェール革命が起きている。これによる石油価格のオルタナティブを考えると高止まりないしは更に値上がりという事だと思います。

ではエネルギーをどうするのか。日本は原子力発電も止まっている状況です。結論からいうと、エネルギー問題に対して日本は総力戦であたるべきだと考えています。

ひとつは、安全を確保して原発を再稼働させること、次に太陽光、風力、潮力、地中熱など再生可能エネルギーのありとあらゆる物を活用していく。ただ残念なのは、まだ十分な蓄電技術が完成していない事です。この蓄電を可能とする媒介が水素でもあるんです。

燃料電池は自動車業界も今後拍車をかけて来ますが、残念ながら充填インフラを整えるのに規制もあり、ステーションの設置コストだけでも欧米の3倍もかかってしまう。

秋林路 自動車のエネルギー確保も根本のところに切り込んでいかないと、何をやっても中途半端で終わってしまう。トラック燃料のCNG(圧縮天然ガス)転換も、多額の費用を投じていますが、今日尚目的を達成していません。

小池 最近、ガソリンスタンドがあちこちで閉所していますね。あそこをガソリンと急速充電と水素や天然ガスなど、あらゆる種類のエネルギーを供給出来る総合エネルギーステーションにする必要があると思います。

秋林路 自動車が必要とするエネルギーは、ガソリンや軽油に限らない時代を迎えていますからね。アメリカの大型トラックは既にLNG(液化天然ガス)に変わってきています。暫くは天然ガスが代替燃料として有望ですが、こちらも充填インフラが整っていません。

小池 最近では地域によってガソリン難民が起きています。

秋林路 ガソリンだけに依存してはいけません。

小池 その点、電気自動車は普及すると思いま



予てから憧れのひととのツーショットに緊張気味

すね。長距離を走る大きなトラックは、直ぐにという訳にはいかないかも知れないけれども、一定地域で活動する小さなトラックは、電気自動車に代わって来ると思いますね。

秋林路 電気自動車産業には、非常に多くの企業が参入して、バッテリーや充電、モーターなどの開発に取り組んでいるので、時間はかかるかも知れませんが、化石燃料に代わる車になると思います。燃料電池車はその一手手前の技術ではないでしょうか。

小池 水素を活用するFCV、燃料電池車については、私は水素社会実現を促進する研究会を立ち上げました。トラックメーカーさんにも参加頂いています。水素ステーションをどう安全に確保するか、研究を重ねています。こちらカギになるのはインフラです。充填する場所がなくては普及する筈がありませんからね。電気は個々の家庭でも充電できますが、燃料電池車の水素はそういう訳にはいきません。しかも大型車になると広いスペースが必要です。

秋林路 先ずはインフラですが、ここが最大の関門です。

小池 当面はガソリン、電気、水素と複合的な時代が暫くは続くと考えています。移動体のエネルギー確保はいずれにせよ不可欠です。

秋林路 価格をどうするのか、ここも大きな課題です。

小池 考えてみると、ガソリン代の半分は税金



です。水素価格を幾らにするのか、これは税体系の中で考えていかなければいけません。

水素インフラの整備については、日本は密集地域が多くあります。ここで水素爆発でも起こされてはたまりませんから、安全を確保しつつ、どこまで規制緩和するべきか、それがどこでミートするのかを研究しているところです。

秋林路 水素は自動車では新しい燃料ですから、産業界の期待も大きい。

小池 水素の面白いところは、例えば北海道は風力の効率が非常に良い。でも北海道で発電しても、消費地に届けなければ活用出来ません。北海道の風力を水素に替えて需要地に運ぶことができる。コストはかかりますが、それと、水素の原料となるのが、随伴ガスや褐炭と呼ばれる、これまで活用されていない石炭などです。これまで商品価値がなかったものに価値を見いだす物なので、資源国にとってもプラスとなります。究極の夢は水から水素を取り出すことです。水(H₂O)から酸素(O)を取り除けば水素(H₂)ですから、これはまんざら夢物語でもないかと。資源のない日本こそがその夢にチャレンジする価値があるんです。

100年前に夢だったことが、現在実現していることは山ほどあるではありませんか。水素は目先だけではなく、大きな意味でエネルギーの安全保障の可能性も秘めながら考えたい。

秋林路 水を分解してエネルギーに替えることが出来たら、日本の資源問題は一気に解決します。

小池 日本という国は、これまで危機が訪れた時に、それを乗り越える対処能力が極めて優れていました。でも、それはあくまで目先の対処です。その目先のことを器用に対処してきた結果が現在の姿です。だから私は本質的な問題、あり方を叫んでいるんです。

■ 100年先を見据えたビジョン構築を

秋林路 資源、エネルギー問題は、トラック運送

業界にとっても密接に関係していて、とても重要な問題です。でも少子高齢化の影響をモロに受けて、ドライバーが不足している問題も、深刻なんです。3年後には現役の団塊世代が70歳を超えるのでクルマを下りる可能性が高くなるし、若い世代は給料が安くて単純労働のこの職業に寄りつこうとしない。私はこのままだと間もなく大消費地に物資が届かない“物流マヒ”が起きかねないと警鐘をならしています。では、

女性をドライバーとして採用してはどうか、という声が聞こえてきます。とても良いことなのですが、これまで男の職場として位置づけられていたので、休息所の仮眠やシャワーなど女性を受け入れるインフラが整っていない。子供さんをもつ女性を受け入れる体制も出来ていない。トラック輸送は表面ではライフラインに位置づけられているけれども、実態はお粗末です。

小池 今、お話を伺って思うのは自衛隊です。実は、自衛官の約5.5%は女性自衛官です。ただ潜水艦には居住空間がないから女性は乗船しないなどの課題を抱えています。潜水艦は非常に閉鎖された空間で、効率よく仕事をしなければいけません。そこに女性用のトイレや水場をつくる事は困難なんです。アメリカ軍では、そういう事も始めているそうです。

実際にパイロットや通信部隊など、これまでも自衛隊に全く女性が居なかった訳ではありません。男性だけと思われていた自衛隊に女性が進出しており、その為には先ず、トイレやお風呂、子育ても含めて女性を受け入れる環境を整えることが大切です。

トラックドライバーさんも同じですよ。男性の職場だと思われていたところも、身体的なハンディを超えて女性も仕事ができるようにする。

これは自衛隊が抱えている問題とまったく同じです。現在はそれを徐々に解決しつつある段階ですからトラック経営者の皆さんも自衛隊を学ばれ



たら宜しいのではないのでしょうか。女性が働きやすい環境は、実は男性だって働きやすいんです。

秋林路 なるほど、トラック協会の幹部に伝えておきます。

小池 はい。3日間くらい体験入隊して、匍匐前進の訓練も受けて頂くと宜しいかと…(笑)

先ほど、日本が資源を求めて南進した話をしましたが、なぜ目的が達成出来なかったかということ、物流、ロジスティクスに問題があったからです。それが実は今、国内で起こりつつあります。物流について、日本は国全体として、そのあり方を真剣に突き詰める必要があります。

この分野でも各企業は非常に器用に、いろいろな困難を知恵と技術で乗り越えて来られた。パイロット不足で飛行機会社が成り立たなくなっているように、トラックドライバー不足も全く同じ現象を抱えている。人口減と同じで、実は昔から判っていたはずなんです。

大局的にみると、経済が停滞すれば物流も減ってしまいますよね。従って、元気な経済を確保しつつ、労働環境を根本から見直し、ドライバーさんの給料をどうやって確保していくのか、法律的な整備をしていく必要があります。

以前、過労運転による観光バスの事故がありました。無理をして安かろう悪かろうでは、「あの会社は危ないよ」という形で悪い噂は直ぐに伝わります。長時間労働など無理はさせない事です。

秋林路 今は、一度大きな事故を起こすと、立ち

直りは極めて困難ですからね。

小池 トラック運送業界は、厳しい競争もあると思いますが、空(カラ)のトラックを走らせないこと。その為には、お互いネットワークを結んで、荷物を融通しあう事も大切です。それが即ち省エネであり、環境問題にもつながります。私は以前から、「もったいない」という言葉をキーワードにしていますが、トラックが空で走るほど“もったいない”ことはないと思います。

先ほど100年前の夢が実現していることは沢山あると申し上げました。100年後のことを考えますと、例えばリアモーターカーについては、私は懐疑的です。ますます地方を疲弊させる。

高速道路も今よりもだいぶ形を変えてくるでしょう。クルマも自動運転の時代になります。目的地をピッと入力すれば、クルマは勝手に走ってくれるという話ですね。100年後には当たり前の時代になっていると思いますよ。

今は過渡期です。その過渡期の中で今申し上げた幾つかの問題も、将来の確かなビジョンを描く。だから今こうすべきという考えにもとづかねば、場当たりで終わってしまいかねない。

100年後を見据えて、2050年にはどう、2030年は…といった逆算をして今を考えましょう。目の前の問題に対処するだけに終わってはい

けません。

環境の世界では、こういう逆算方式をよく使います。現実問題では、そんなバカな、と反対意見が多く出て、思考停止に陥るんですよ。そして、結局歩みを止めてしまう。そういう逆算思考が出来る国や企業は強いんです。

秋林路 なるほど、大きなビジョンがあるから逆算思考ができる訳ですからね。

小池 そうです。ですから、そう言った点を国、政治、行政が、目の前だけではなくて、業界の方々と一緒になって当たるのが大切です。

確かにトラック運送業者さんの中には、今月のお給料が払えないといった現実もあるでしょう。でも、時にはそういう夢を語りつつ、現状を改善していったらいいと思いますね。

秋林路 確かに、最近のトラック運送業界には夢がない。若い経営者の集会でアンケートをとったら「自分の子供にこの仕事を継がせたくない。」と答えた人が90%以上を占めた現実があります。実に悲惨な状況です。しかも、ドライバー不足に燃料高騰が更に経営を圧迫している。逆に、だからこそ長期ビジョンが必要という事かも知れません。

■交通障害になっている電柱をなくす活動

小池 最後に、もう一点付け加えておきたい事があります。

私は今、“無電柱化”に取り組んでいます。トラックボデーの上の方に傷が付いているのをよく見かけますが、殆ど電柱にぶつかっているんですよ。電柱ほど日本の交通を阻害している要因はないんです。都市の景観がキレイとか汚いというレベルの問題ではないんです。ところが日本人は電柱があるのが当たり前だと思っている。

日本中には3500万本の電柱があります。これは桜の木の数と同じなんです。

桜はキレイだけれども、電柱は汚いですよ。それが当たり前と思っているのは、皆さんが意識していないからなんです。

秋林路 確かに、邪魔だなーと思うことはあるけれども、送電しているのだから仕方ないと思っていますよね。

小池 当たり前ではダメなんです。ガスや水道も地中ではありませんか。無電柱化民間プロジェクトも立ち上がりました。東京トラック協会の会長さんにも加わって頂いています。

秋林路 確かに、この電柱はトラック運送業者にとっては邪魔ですから、無いに超したことはない。なぜ今日までほったらかしにしておいたのでしょうかね。

小池 ひと言で申し上げれば、電力会社のコストが低くて済むから。電柱が倒れて道路を塞いだら交通がストップします。そういう危険性もあるのです。

秋林路 阪神淡路大震災でも倒れた電柱が道路を

塞いで緊急物資の輸送を妨げたと聞いています。

小池 そうです。これは防災の観点からも必要なんです。トラック運送業者の皆様もこの電柱の存在が当たり前ではないと理解願いたいと思います。私はネクタイの次は電柱を引っこ抜くと豪語しています(笑)。

秋林路 今日は大変良いお話でした。昔から『国家100年の計』と申しますが、最近では未来に向けた具体的なビジョンが殆ど示されておられません。国民の精神的な拠り所も含めて100年後の政治や経済は何を目指すのか、常に考え続けなければならないテーマだと思います。

小池 ドライバー不足については、必要な人材を外に求めるという考えもあります。この先、必要だと思った時には、日本が衰退していて誰も来てくれないかも知れません。

秋林路 日本に憧れる素晴らしいものがないと、海外から人材は来ません。

小池 交通標識もそうですが、今は日本語だけで英語表記すらない。

秋林路 海外から来られた方は大変苦勞されています。

小池 皆さん、日本の目でしか物を見ていない。鳥の目(バードアイ)になって、世界を見渡して、日本がどうあるべきかを考える時です。

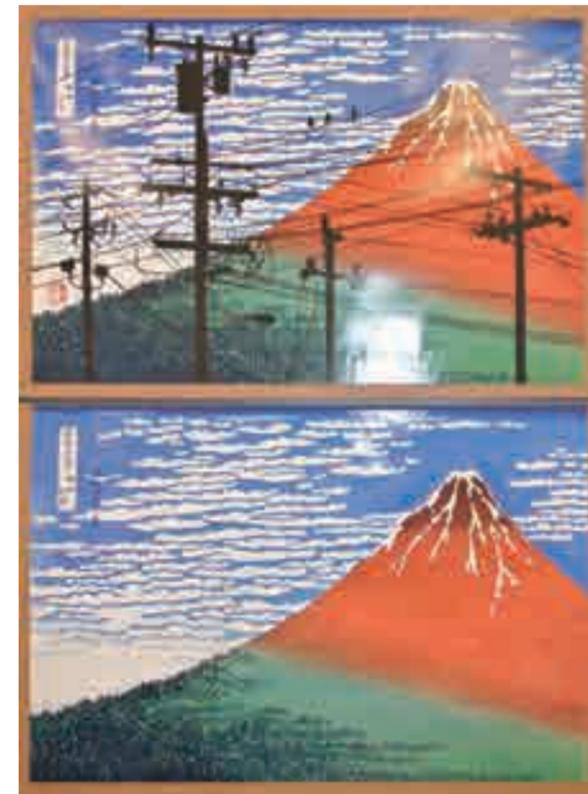
秋林路 日本がアジアの先進国だと言う以上は、現実の姿も先進したものじゃないと、名実ともに…、とは言えませんね。

小池 燃料電池車ひとつとっても、経済産業省、国土交通省、警察庁それに総務省、環境省の5つは関係しています。役所の都合で個々にやっていたのでは、障壁を取り除くことは出来ません。法律は出来ました、予算もつきました、でも何も変わりませんでした、という事が延々と続くんです。

秋林路 やはり政治主導の国家運営を出来るだけ早く取り戻さないとダメだと思いますね。本日はご多忙のところ有り難う御座いました。



日本文化ならではの「もったいない」がキーワード



富士山の絵を使った無電柱化のポスター